

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	災害復興制度研究所
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置 (院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施状況と有効性

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育拠点形成に向けて「災害復興学」を継続的に開講するため、その教員組織や運営体制を整備する。	→「災害復興学」の継続開講年度数、担当学部数、担当教員数、履修者数。	B	B	B	B	/
2. 国際的拠点形成に向けて、国際教育・協力センターとの協力関係を構築する。	→国際教育・協力センターとの連携による研究者・学生の交流実績。	C	C	C	C	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
3. 高麗大学校日本研究センター(韓国)との共同研究を実施する。(2012年度設定)	→交流実績、刊行物の数。	/	/	/	B	/
4. 福島大学開講の「ふくしま復興学」への協力を行う。(2012年度設定)	→講師の派遣数。	/	/	/	B	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	「災害復興学」の春学期・秋学期開講は2012年度も継続してきたが、新たに、受講生の世代進行(阪神淡路大震災を直接経験しない世代)に合わせた授業内容の変更など新たな展開を検討し、その実施のための教員組織や運営体制をも考慮する段階にきている。
目標2	個々の研究については、研究員等が個人的に海外での研究を実施してきているものの、未だ組織的には未達成である。
目標3	高麗大学校日本研究センターグループと共に「東日本大震災と日本」をテーマに研究交流を開始、2012年9月に同センターとの共同主催で国際学術大会「東日本大震災と日本—災害から見た日本社会と韓国への投影—」を高麗大学校にて開催した。また、その成果を「東日本大震災と日本—韓国から見た3・11」として出版した。
目標4	福島大学開講「ふくしま復興学」に室崎所長・山中主任研究員を派遣した。また、同大学との共同研究については10月開催の日本災害復興学会にて一定の成果を公表した。
備考	